

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束を行わないケアに努めているが、それ故に離設や転倒等のリスクが高まっているのも事実である。見守りや付き添いの重要性の他、危険因子を根本的な部分から理解しケアにあたることで、拘束や事故に繋がるリスクを軽減していきたい。	本人の行動を制限しないケアの継続と、それに伴う事故や拘束へ繋がるリスクを軽減することができる。	身体拘束を行わないケアの継続と共に、利用者の生命、身体に危険が伴うような言動がないかを職員間で見直す。危険因子があればその要因が何であるのかをアセスメントし、ケアプランに反映させ拘束、事故防止に生かしていく。身体拘束の緊急やむを得ない場合についての3要件について再度確認する。	3ヶ月
2	23	利用者の内面的な部分、本音の部分に働きかけられているかどうかを突き止めていきたい。	利用者の希望、意思の把握と、それに添ったケアの実践に努める。	利用者の発言や行動が何を意味し、職員がどう判断しケアにあたったのか、結果どうだったのかまでを記録に残していく。	6ヶ月
3		ケアプランの内容がマニュアル的な要素とそれ以外の機能改善や満足度を高めるため支援が混同している。	利用者の満足度を高めるための具体的な支援を介護計画に掲げる。	ケアプランの内容を見直し、ケアマニュアル的な要素は省き、利用者の機能改善や満足度を高められる内容に限定する。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。